八月の群れ

兵庫県

伸びやかな合議制と安い掲載料

文芸同人誌「八月の群れ」が発足したのは、一九八一年八月のことでした。今年で三九年目、発行号数七〇号、人で言うならば、古希を迎えます。

大阪堂島の朝日カルチャーセンターの講座・芥川賞候補作家竹内和夫氏の「小説実習」の受講生の有志が集まって創刊した同人誌です。誌名は戦争の惨禍を忘れないため終戦の日八月一五日を意識し、また大阪堂島で危なげな筏（いかだ）に乗り合わせた人の群れに由来します。

同人構成メンバーは最近では珍しいことですが、創刊当初から男性作家が多く、平均するとおおむね男女半々というところです。年齢構成は高齢化が進んでいますが、今回貴誌から「優秀賞」をいただいた葉山ほずみや「準優秀賞」の山咲真季など若手もおり、書き手の中核です。

当初は受講生だけで立ち上げたのですが、第二号から竹内和夫氏の指導を受けることになり、二〇一七年六月一八日の「父の日」に逝去した氏が闘病生活に入る二〇一三年六月まで長年、編集責任者として作品の事前審査、掲載順位の決定などを行い、『八月の群れ』にとって大きな存在でした。氏は同人誌と同人誌作家を支援する「神戸エルマール文学賞」、大阪文学学校のチューター、新聞社の同人誌評、新聞社の読者文芸の選者、小島輝正文学賞（４回）、神戸ナビール文学賞（13回）、神戸エルマール文学賞（11回）の選考委員、神戸市など地方自治体主催の文芸祭の審査委員などを歴任しました。その中で、同人誌や同人誌作家支援、発掘を「文学の地下水脈の発掘」と位置づけ、生涯、同人誌の仕掛け人と自称し、情熱を傾け、その功績は偉大でした。ですから、編集責任者の承認なしでは、「八月の群れ」の同人になることも作品を掲載することもむずかしかったのです。実質的編集事務はすべて同人代表がしていましたが、「編集後記」を書くこともできませんでした。もちろん事前合評会はなく、できあがった雑誌を合評する方式です。そうしたなか、一九八九年、突然『八月の群れ』発刊の経緯や掲載作品の可否、同人加入決定等に異議を唱えて一気に創刊同人、中核同人五人が、退会したのです。

その結果、「編集後記」は代表と編集同人の持ち回りとなり、竹内氏は作品を読み、掲載順位を決定することだけとなりました。その後、この体制は五六号まで続きます。

彼が入退院を繰り返していた二〇一三年九月（五七号）



「八月の群れ」合評会後の懇親会風景

から「八月の群れ」の編集はすべて「編集委員会」の合議で行うことになりました。掲載を希望する同人は、五人の編集委員にメール（郵送は一人のみ）で作品を送り、各編集委員は読んでその批評を作者のみならず編集委員全員にメールで送る形式です。すなわち紙上合評会です。各編集委員はすべての批評を共有したのです。掲載順位も巻頭、巻末、第二番目と決定し、合意で行うとともに優れた作品優先、若手優先が編集委員会の総意でした。

同人全員での合評会は、過去の経緯から各号発行後に行いますが、優しさのなかに厳しさが込められており、特に忖度は一切ない重鎮の女性の批評は、一週間は立ち直れない優しい厳しさです。しかし、間違っていないため恨むことも出来ないのです。「八月の群れ」は一見優しい群れに見えますが、彼女が元気でいるかぎり怖い群れかもしれません。

しかし、合議制の編集委員会方式になってから、ある変化が同人の間に起きたのです。各号ごとの応募作品数が多くなっていったのです。現在八人の同人ですが、常に六、七作品の掲載が続いているのです。これは今まで考えられないことでした。おそらく同人各位が自由に伸びやかに何のしがらみもなく作品を気楽に出せるようになった賜（たまもの）ではないか、と思います。

それと掲載料が安いことも原因かもしれません。各同人

安い掲載料が魅力

の自己負担をできるだけ少なくするため、誌発行費も原稿料はもちろん出ませんが、年会費は月１０００円、ページ当たり（一二〇〇字）掲載料は２００円です。四〇〇字詰め原稿用紙一〇〇枚の作品で約６８００円なのです。

どうしてそんなに安いのでしょう。それは、校正は作者責任で行い、編集同人が版下まで作成して完全原稿で印刷所へ入稿するからです。

また「八月の群れ」に参加するのは人格優先ですが、簡単です。作品を提出していただき、二編集委員の承認があればいいのです。

今、「八月の群れ」は「代替わり」の刻（とき）を迎えています。そんなとき、わが若手の葉山ほずみが貴誌の「優秀賞」をいただけることは「八月の群れ」が新しい群れに羽化するきっかけになればと思っています。貴誌に心から感謝いたします。

（文責／野元正）

「八月の群れ」
〒673・0841　兵庫県明石市太寺天王町四・二
代表　野元　正
TEL　078・912・8549



さあ、これから合評会